視野を広げたインターンシップ

信州大学理学部生物科学科　３年　馬　任遠
（配属先：初期発生研究チーム）

暑い神戸で行われた熱いCDBインターンシップ。大学とは異なる研究所の「空気」を肌で感じ、志高い仲間に囲まれながら過ごした５日の余韻は、終わった後もなかなか覚めません。ラボでの実習、講義、オープンラボ等、様々なプログラムを通して、今まで知らなかった知識と考え方が得られたと同時に、自分自身を成長させる素晴らしい機会になりました。

配属先である初期発生研究チームでは様々な国から来た研究員がいるため、ラボでの会話は全て英語でした。同じく配属された仲間と共に、未知の遺伝子が正常／異常胚でどのように発現するのか探り、それをメンターや中国からの研修生と共に討論していく。そして、それを一つの形にまとめ、英語でプレゼンテーションを行った。「実験、考察、まとめ」という研究に欠かせない過程を体験できたのはとても良い経験でした。大学の実習とは違い、まだ答えの無いものを手探りで求めて行く過程はかなり面白く、研究の醍醐味を知れたと思います。

他大学、他学部の学生達と交流できたのも今回のインターンの大きなポイントです。懇親会では時には笑い、時には真剣に、各々が持つビジョンと学問に対する考え方を話し合いました。目指すものはそれぞれ違うものの、こうした高いモチベーションを持った同年代の人との交流はポジティブな刺激になり、自分の向上心を更に掻き立てました。

CDBインターンに応募したきっかけは学部卒業後の進路に関する悩みでした。「研究に携わりたい」と願望は有るものの、そこにどうやってアプローチしていくのか、また、研究職に着いた後どうするか。具体的な考えは無く、漠然としていました。そこで、視野を広げようとインターンに参加したのだが、期待以上に多くの事を得られました。厳密なプランニングや丁寧な実験手法、オーバーディスカッションを避ける配慮。これらは研究者を間近で見ることでしか学べません。理系学部生で自分と同じ悩みを抱えている人にとって、このインターンシップは大きな手掛かりになるはずです。

最後になりますが、インターンシップ事務局の方々、期間中は大変お世話になりました。短いながらも、これ以上無い濃密な５日を過ごせたのは皆様の素晴らしいバックアップのおかげです。本当にありがとうございました。

プレゼンテーションを終えた後。
左から Jim(研修生)、Cantas（メンター）、Guojun(TL)、羽田 優花（インターン生）、国分 杏奈（インターン生）、馬 任遠（インターン生）